

世界の果実生産国トップ20

Insider Monkey 2023年8月31日

この記事では、世界の果実生産国トップ20を紹介する。世界の果実の恵みに関して、中国、インド、ブラジル、トルコなどの特定の国々は、まさに豊かな果物の園として際立っている。これらの国々は、独特の気候と肥沃な土壌、農業の専門知識を活用して、果実生産の世界的リーダーとなった。ジューシーな柑橘類の木立から広大なブドウ園や生い茂るバナナ農園、甘い香りのリンゴ園まで、これらの国々は国内需要を満たし、世界の果実市場に大きく貢献している。

世界の果実生産の概要

近年、世界中の消費者からの新鮮で健康的な農産物に対する需要が高まっており、世界の果樹産業は大幅な成長を遂げている。上位の果実生産国は、中国、インド、米国、ブラジル、スペイン等で、世界の果実のうちのかなりの量を生産している。最近の財務統計によると、生鮮果実市場は2023年に6,745億ドルの売上げを生み出し、2023年から2028年までの年成長率(複利計算)は6.79%と予想される。

一方、アボカド、パイナップル、マンゴーなどのエキゾチックな果実を生産する傾向が高まっており、業界の成長に貢献している。業界全体の持続可能性にもかかわらず、果実栽培に農薬やその他の化学物質を使用することについての懸念が提起されている。その結果、健康的で環境に配慮した農産物に対する需要の高まりに対応するため、有機栽培で持続可能な農法を実践し始めた果実生産者も多い。そうすることで、生産者は消費者の安全を確保するだけでなく、より持続可能で環境に優しい未来に貢献している。

果樹農業における課題と機会

果樹農業は、難しい課題と有望な機会が交錯する岐路に立っている。気候変動は重大な障害であり、干ばつや洪水などの不安定な気象パターンが果実の生育と収量を危険にさらしている。変化する天候への対応は、収穫物を守ろうとする生産者にとって最も重要である。

別の試練は、有機栽培で持続可能な果実生産への要求の急増から生じる。環境に配慮した消費者層は、農法をますます精査し、環境に優しい方法を支持している。しかし、従来農法の生産者が持続可能な技術を取り入れるためにはより多くの手段が必要であり、移行は困難な場合がある。

生鮮果実の分野では、市場規模は2024年の4.4%の力強い成長を反映して、2028年までに3,037億キログラム(3億トン)に達する構えである。1人当たりの平均では、生鮮果実市場は2023年に33.14キログラムに達すると予測される。

これらの課題の中で、果樹農業にはさまざまな機会が存在する。消費者が斬新で魅力的な食味を求めることから、エキゾチックな果実や特産果実は人気は急上昇している。より多くのドラゴンフルーツ、キウイフルーツ、ザクロなどが、家庭に浸透するようになっている。

さらに、果汁、スムージー、スナックなどの果実由来の製品に対する需要の高まりは、急成長する市場を生み出している。食品メーカーや小売業者に一流の食材を供給できる果実生産者は、良い立場にある。最近の財務予測によると、2021年に1,410億ドルと評価された世界の果汁市場は、健康志向の天然飲料への欲求の高まりに牽引されて、2022年から2027年まで年4.31%の成長が見込まれ、2027年までに1,820億ドルに達すると予想される。

主要な果実企業：主要な企業の概要とその影響

果実の生産に関して、頭に浮かぶ企業がいくつかある。業界で最大手の企業の1つは、バナナ、パイナップル、ベリー類など、さまざまな果実を生産するドール社(Dole plc)である。同社は2022年の純収益を92億ドルであると報告している。もう一つの主要企業は、バナナや他の熱帯果実で知られるチキータ(Chiquita)社である。同社は2022年の純収益を31億ドルと報告した。両社は世界市場で強力な存在感を示しており、その事業において持続可能で倫理に即した慣行に取り組んでいる。

その他の注目すべき果実企業としては、フレッシュデルモンテ・プロデュース社(Fresh Del Monte Produce, Inc.)、サンメイド(Sun-Maid)社、サンキスト(Sunkist)社等がある。フレッシュデルモンテ・プロデュース社は、2022年に44億ドルの純収益を報告した。

ドール社、フレッシュデルモンテ・プロデュース社等は、消費者が信頼できる高品質の果実を生産することで評判を築いてきた。健康的なスナックを探している場合でも、お気に入りのレシピの材料を探している場合でも、これらの主要果実企業がそれに対応している。

市場力学と今後の動向

果実市場は、時代の変化とともに進化し続けるダイナミックで変化の絶えない業界である。近年、有機栽培及び地元産の農産物の需要が大幅に増加しており、有機果樹園と有機市場の数が増加し、2020年の有機果実の販売額は11%増加して総額182億ドルに達した。さらに、エキゾチックな果実の需要が急増している。消費者が食べ物の選択にますます冒険的になり、ユニークでエキゾチックな味を求めているため、この傾向は今後も続く予想される。

テクノロジーも果実市場で重要な役割を果たしており、電子商取引プラットフォームの台頭により、消費者は世界中でこれまで以上に簡単に果実を購入できるようになり、果実の世界市場が創出され、競争の激化と価格の低下につながっている。

将来に目を向けると、果実市場は、新技術の台頭と消費者の嗜好の変化に伴い、成長と変化を経験し続けると予想される。しかし、これらの変化に関係なく、確かなことが1つある - 果実は常に健康的でバランスの取れた食事に不可欠である。

方法論

本稿では、世界の果実生産国を2020年の果実生産トン数に基づいてランク付けした。データはFAOから取得した。(文末の訳注を参照)

(以下20位から1位の順で記述)

20. 南アフリカ 果実の総生産量: 7,456,699トン

南アフリカは、柑橘類、ブドウ、リンゴ、ナシ、オレンジ、アボカド、マンゴー、パパイヤ、パイナップルなど、多様で高品質の果実で知られる有数の果実生産国である。その温暖な気候と肥沃な土壌は、果実栽培に理想的な条件を作り出している。この国の果実は味が良いだけでなく、栄養価も高い。南アフリカの活気に満ちた果樹産業は大きな収益を生み出しており、2023年の生鮮果実市場の規模は20億6千万ドルである。この市場は、2023年から2028年の間に毎年5.79%成長すると予測される。

19. エクアドル 果実の総生産量: 7,630,370トン

エクアドルは、バナナ、マンゴー、パイナップル、パパイヤなど、さまざまな熱帯果実で知られる果実の主要生産国の1つである。世界最大のバナナ輸出国として有名で、年間3億箱以上を出荷しており、その並外れた味と品質で知られている。エクアドルは、バナナに加えてマンゴー、パイナップル、パパイヤも世界中に輸出しており、その甘さと栄養価で高く評価されている。2023年のエクアドルの生鮮果実市場の規模は10億8千万ドルであり、2023年から2028年まで毎年1.79%の割合で成長すると予想される。

18. フランス 果実の総生産量: 8,887,220トン

フランスは、豊かな土壌、好ましい気候、高度な農業で知られる世界有数の果実生産国である。リンゴ、ナシ、サクランボ、モモ、アンズ、スモモ、ブドウ、イチゴ等は人気がある果実で、フランスはリンゴ生産でヨーロッパ第2位、イチゴ生産で世界第5位にランクされる。この国の果樹産業は安全性と品質を重視しており、フランスの果実は世界中で非常に人気がある。2023年のフランスの生鮮果実市場の規模は125億3千万ドルと評価され、2023年から2028年までの年間成長率は2.43%と予想される。

17. パキスタン 果実の総生産量: 9,825,573トン

世界有数の果実生産国の1つであるパキスタンはその好ましい気候と肥沃な土地で知られ、マンゴー、オレンジ、バナナ、グアバなどの果実を産出する。世界第4位のマンゴー生産国であるパキスタンは、その並外れた品質の果実で知られており、世界的な需要が高い。果樹産業は経済を後押しし、何百万人もの人々に雇用を提供している。パキスタンの果樹産業はまた、病気を予防する栄養価の高い果実で健康を増進し、福祉を向上させ、国内外の社会に利益をもたらしている。パキスタンの2023年の生鮮果実市場の規模は85億ドルと評価され、2023年から2028年までの年間成長率は7.30%と予想される。

16. タイ 果実の総生産量: 10,098,175トン

タイは一流の果実生産で有名である。ドリアン、マンゴー、ランブータン、ポメロ、リュウガンなど、甘くてジュシーな味わい、鮮やかな色、そして独特の形で知られるさまざまな果実を栽培している。果樹産業は経済の重要な推進力であり、2023年には46億ドル以上を生み出し、何百万人もの人々に雇用を提供している。タイの果実は、その品質と鮮度によって世界的に高い需要があり、経済的利益を超えて、免疫システムを高め、消化を助け、慢性疾患のリスクを減らすビタミン、ミネラル、抗酸化物質が豊富な健康的な食生活を促進している。タイの果樹産業は、味、視覚的な魅力、健康上の利点を兼ね備えており、国内外の消費者にとって最高の選択肢となっている。

15. コロンビア 果実の総生産量: 10,521,546トン

コロンビアの果樹産業は、国の経済に大きく貢献してきた。この国の2023年の果実市場の売上は39億ドルに達し、バナナ、パイナップル、アボカドなどを輸出した。果樹産業は多くの人々に雇用機会を提供し、多くの小規模生産者は政府の支援プログラムの恩恵を受けている。健康的で持続可能な食品に対する需要の高まりに伴い、コロンビアの果樹産業は世界市場での継続的な成長と成功の準備が整っている。

14. ベトナム 果実の総生産量: 10,616,559トン

最も多く野菜を消費する国の1つでもあるベトナムは、果実生産の主要な世界的プレーヤーであり、その好ましい気候と肥沃な土地を利用して、ドラゴンフルーツ、マンゴー、ドリアン、ポメロなどの需要の高い果実を栽培している。これらの果実の並外れた品質は、高度な農業技術と厳格な品質基準のおかげである。この繁栄した産業はベトナム経済を大幅に強化し、何百万人もの人々に雇用を提供し、かなりの外貨収入を生み出している。ベトナムの果実と野菜の輸出は主に中国の旺盛な需要に牽引されており、驚くべきことに2023年上半期には記録破りの27億ドルに急増した。特に、ドリアンがベトナム最大の輸出果実であり、続いてドラゴンフルーツが1月から5月までに前年比10.7%の増の3億310万ドルを超える輸出収入を記録した。

13. ナイジェリア 果実の総生産量: 11,529,922トン

世界有数の果実生産国であるナイジェリアは、マンゴー、パイナップル、オレンジ、バナナ、スイカなど、幅広い種類の果実を誇っている。ナイジェリアの2023年の生鮮果実市場の規模は168億ドルと評価され、2023年から2028年までの間に毎年11.55%成長すると予想される。果樹産業は、何百万人もの人々に雇用を提供し、輸出収入を生み出すことにより、ナイジェリアの経済に大きく貢献している。研究やインフラ改善のための資金等、政府の支援は業界の成長を助けている。貯蔵や輸送などの課題にもかかわらず、ナイジェリアの献身的な生産者は、国内外に向けて高品質の果実を生産し続けており、ナイジェリアを世界の果実市場の重要なプレーヤーとして位置付けている。

12. エジプト 果実の総生産量: 14,733,617トン

世界の主要果実生産国の1つであるエジプトは、オレンジ、レモン、グレープフルーツなどの柑橘類や、マンゴー、グアバ、イチジク、ザクロに焦点を当て、このリストの第12位となっている。エジプトの生産者は、高品質で健康的な作物を確保するために最新の技術を採用しており、有機農業への傾向が高まっている。果樹産業は、その戦略的な位置がヨーロッパ、アジア、アフリカへの輸出を促進することで、国内消費と世界への輸出の両方を通じてエジプトの経済に大きく貢献している。エジプトは、特に柑橘類の重要な輸出国であり、2021年にはオレンジだけで7億ドル以上の輸出収入をもたらした。エジプトの2023年の生鮮果実市場の規模は141億8千万ドルと評価され、2023年から2028年までに毎年10.27%成長すると予測される。

11. フィリピン 果実の総生産量: 16,482,063トン

フィリピンは世界有数の果実生産国であり、マンゴー、バナナ、ドリアン、ランブネスなど、熱帯気候と肥沃な土壌で育つ多様な果実で有名である。果実の栽培は多くの人々にとって重要な生計手段であり、この国の豊富な果実を主要な食材とする料理も多い。特に、COVID-19の発生以来、フィリピンの消費者は生鮮果実をより受け入れており、世界からフィリピンへの果実の輸入は36%増加し、2020年には合計6億9,500万ドルとなった。フィリピンの2023年の果実とナッツの市場規模は50億5千万ドルと評価され、2023年から2028年までの間に毎年7.32%成長すると予測される。

10. イタリア 果実の総生産量: 17,827,510トン

理想的な気候と肥沃な土壌により、イタリアは世界トップクラスの果実生産国の1つであり、ブドウ、サクランボ、リンゴ、ナシ、柑橘類など、多様な品目で有名である。プレミアム品質で知られるイタリアの果実は、その並外れた風味、食感、鮮度により世界中で高く評価されている。果樹産業は経済の重要な推進力であり、特に農村部で収入と雇用を提供し、多くの小規模生産者がそれに依存している。イタリアの果実生産は、環境を保護し、農場の長期的な存続可能性を確保するために、持続可能な有機農法にも注力している。イタリアの果実輸出は2023年に、国際市場での8%の成長を反映し、初めて100億ユーロを超えた。

9. イラン 果実の総生産量: 18,963,596トン

イランは、リンゴ、ブドウ、ザクロ、サクランボなど、多様な品目を生産するトップクラスの果実生産国の1つである。その果実生産は国内消費と国際輸出向けであり、経済に大きく貢献している。政府は、研究、インフラ開発、農民支援を通じてこの産業を支援し、継続的な成長を確保している。その経済的重要性を超えて、果実はイランの料理と文化遺産において文化的及び伝統的な価値を保持している。イランは2021年にインド、パキスタン、中国、マレーシア、トルコを主な輸出先として、1億4,600万ドル相当の熱帯果実を輸出した。イランの2023年の生鮮果実市場の規模は46億7千万ドルと評価され、2023年から2028年まで毎年8.74%成長すると予想される。

8. スペイン 果実の総生産量: 19,471,070トン

スペインは、オレンジ、レモン、ブドウ、モモなどの高品質の果実で知られ、肥沃な土地と好ましい気候により繁栄している世界有数の果実生産国である。果樹産業は国民経済への主要な貢献者であり、雇用と重要な輸出収入を提供している。スペインは、マンダリンの生産で世界第1位、スイカで同第2位、イチゴで同第3位にランクされる。スペインの2023年の生鮮果実市場の規模は112億9千万ドルと評価され、2023年から2028年まで毎年2.27%成長すると予測される。2022年の果実の輸出額は3%減少したものの88億4,300万ユーロ(1,050万ドル)であり、野菜の輸出額は7%減少して530万トンとなった。

7. インドネシア 果実の総生産量: 22,743,965トン

インドネシアは果実の生産に優れており、このリストの7番目に位置し、バナナ、パイナップル、マンゴー、有名なドリアンなどの多様な果実を生産し、それらは広く輸出されている。果樹産業は多くの人々に雇用を提供し、インドネシアの経済に大きく貢献している。インドネシアは2021年に8,040万ドルの熱帯果実を輸出し、中国、香港、アラブ首長国連邦が主要な出荷先であった。インドネシアの2023年の生鮮果実市場の規模は206億4千万ドルと評価され、2023年から2028年まで毎年7.69%成長すると予想される。豊富な天然資源と良好な気候により、インドネシアは今後何年にもわたってトップクラスの果実生産国であると見込まれる。

6. 米国 果実の総生産量: 23,747,765トン

米国は、北東部のリンゴからフロリダ州のオレンジ、ジョージア州のモモまで、さまざまな地域で栽培される多様な果実で知られる重要な果実生産国である。好ましい気候、肥沃な土壌、そして高度な農法が、高品質な果実の生産に貢献している。ベリー類やブドウなどの従来からの果実に加えて、米国はアボカドやパパイヤなどのエキゾチックな果実の栽培にも優れている。持続可能性と革新は、米国の果実生産の将来にとって重要な焦点である。米国の2022年の生鮮果実の輸出額は41億ドルに達したが、これは2021年と比較して8%の減であり、輸出量は前年比13%減少した。

5. メキシコ 果実の総生産量: 23,837,562トン

メキシコは、世界のトップクラスの果実生産国の中で5番目にランクされる。アボカド、バナナ、マンゴー、パイナップルなどの主要な果実は、優れた風味と重要な栄養素を提供する。果樹産業はメキシコの経済に大きく貢献し、雇用を提供し、収入を生み出している。大きな利益を生み出している注目すべき品目は、35億ドルのアボカド、24億ドルのトマト、13億ドルのピーマン、8億6,200万ドルの柑橘類、7億8,800万ドルのイチゴである。メキシコの2023年の生鮮果実市場の規模は122億5千万ドルと評価され、2023年から2028年までの間、毎年5.80%成長すると予想される。

4. トルコ 果実の総生産量: 24,153,128トン

トルコは、特にリンゴ、ブドウ、ナシ、サクランボ、アンズ及び有名なトルコ産イチジクなど、並外れた果実の生産で有名である。その農法は、国内外で強く求められる高品質で栄養価の高い果実を産出する。トルコは4月に、2億3,570万ドル相当の32万6,020トンの生鮮果実と野菜を輸出し、上位品目はトマト、ピーマン、レモン等であった。主な輸出先はロシア5,810万ドル、ルーマニア3,510万ドル、ウクライナ1,960万ドルであった。その良好な気候と肥沃な土壌により、トルコは最高水準の果実生産国としての地位を維持している。

3. ブラジル 果実の総生産量: 39,758,842トン

ブラジルは、バナナ、マンゴー、パパイヤ、パイナップルなどの熱帯果実で有名な世界トップクラスの果実生産国の1つであり、その好ましい気候と肥沃な土壌によって繁栄している。果樹産業はブラジルの経済を支え、雇用とかなりの輸出収入を提供している。ブラジル産の果実は、その品質、風味、栄養によって国際市場で高く評価されている。政府の最近の取り組みは、持続可能な果実生産、農薬の使用の削減、天然肥料の利用促進に焦点を当てており、環境と果実の品質の両方に利益をもたらしている。2021年のブラジルの果実輸出上位品目は、マンゴー、メロン、ブドウ、ナッツ類、クリ、レモン、ライム等であった。ブラジルの2023年の生鮮果実市場の規模は98億8千万ドルと評価され、2023年から2028年までの間に毎年5.72%成長すると予想される。

2. インド 果実の総生産量: 105,971,127トン

インドは世界の主要果実生産国の中で2番目にランクされており、マンゴー、バナナ、グアバ、リンゴ、ブドウ、オレンジなどの多様な果実を誇っている。インドの有機果樹栽培は、健康上と環境上の利益に牽引されて増加している。果樹産業は、インド経済に大きく貢献し、健康的な食事を推進し、何百万人もの人々に雇用を提供している。2023会計年度には、生鮮果実の輸出は約8億6,370万ドルに達し、加工果実と果汁は9億800万ドル強と評価された。インドの生鮮果実市場の規模は1,051億ドルと評価され、2023年から2028年までの間に毎年8.34%成長すると予測される。

1. 中国 果実の総生産量: 242,793,824トン

中国は世界一の果実生産国であり、その多様な地形、好ましい気候、肥沃な土壌及び高度な農業により、リンゴ、ナシ、モモ、オレンジ、ブドウなどの多くの果実の生産を誇っている。特に、2022年の中国の主要な輸出果実は、生鮮リンゴ、生食用ブドウ、柑橘類、生鮮ナシ、グレープフルーツ等であった。中国の2023年の生鮮果実市場の規模は911億ドルと評価され、2023年から2028年までの間に毎年8.38%成長すると予想される。

(訳注)

1. この記事で使用しているFAOのデータは2021年更新のものであり、現在FAOの統計サイト(FAOSTAT)に掲載されている2020年のデータ(2022年更新)とは一致しません。
2. FAOSTATの「果実」には、果実的野菜であるメロン、イチゴ、スイカを含み、この記事で言及があるものの野菜に分類されるトマト、ピーマン及びナッツ類に分類されるクリ及びその他のナッツを含みません。
3. この記事と同じデータ及び手法を用いた場合、日本は2,929,692トンで第47位となります。